

特集

1. 第1回 北九州SDGs未来都市アワード

(1) 背景・目的

SDGs・ESD 活動者の意欲の向上と、本市のSDGs・ESDのさらなる推進を図るため、平成30年度に新設した「環境首都北九州SDGsアワード ESD表彰」を「北九州SDGs未来都市アワード」として改編し、北九州ESD協議会との協働により実施しました。

(2) 応募資格

北州市内を中心にSDGsの達成とそれを担う人づくり活動に取り組む、学校・団体・企業の活動。

(3) 今年度の授賞数と今後の取組

学校、NPO・市民団体、企業等の幅広い主体から42件の応募があり、うち22件（SDGs大賞4、ESD賞4、SDGs賞11、奨励賞3）を表彰しました。

今後も本表彰を通じて市内のSDGs・ESD活動を見える化し、一層の普及と活動の活性化を図ります。



2. 北州市、株式会社NTTスマイルエナジー、株式会社エネット及び株式会社北九州パワーによる「環境・SDGsに関する連携協定」の締結

(1) 経緯

北州市、株式会社NTTスマイルエナジー、株式会社エネット及び株式会社北九州パワーは、環境・SDGsの分野においてお互いの強みを活かして連携して取組むため、令和元年5月に協定を締結しました。



北州市、株式会社NTTスマイルエナジー、株式会社エネット及び株式会社北九州パワーによる環境・SDGsに関する連携協定締結式(R1.5.29)

今回の連携協定締結により、環境・SDGsに関する市民の参画を推進するとともに、新たなビジネスの創出にもつなげ、本市、日本及びアジア地域の持続可能な社会づくりを図っていきます。

(2) これまでの取組

北州市は「ジャパンSDGsアワード」特別賞受賞やSDGs未来都市の選定など、自治体のトップランナーとして環境・SDGsに関する取組を推進してきました。また、株式会社NTTスマイルエナジー、株式会社エネット及び株式会社北九州パワーは再生可能エネルギーの導入拡大等、CO2排出量の削減に寄与する事業を実施しています。この4者が連携することで、再生可能エネルギーの導入拡大とエネルギーの地産地消を図ります。また、取組をモデル化し、国内外に展開することで、日本及びアジア地域の環境・SDGsの更なる推進につなげていきたいと考えています。

(3) 今後の取組

ア. 市内卒FIT太陽光発電活用事業

北九州パワーによる市内卒FIT電源の供給を実施しています。

イ. 太陽光発電と電気自動車を活用した災害対応自家消費実証事業

北州市エコタウンセンターに太陽光発電を設置し、電気自動車のスマートな充電制御を組み合わせた最適なエネルギーマネジメント（VPP）実証を行います。

3. 第21回 日中韓三カ国環境大臣会合(TEMM21)を北州市で開催

令和元年11月23日～24日、日本の小泉進次郎環境大臣、中国の李幹傑（リ・カンケツ）生態環境部長、韓国の趙明來（チョ・ミョンレ）環境部長官が本市で一堂に会し、第21回日中韓三カ国環境大臣会合（TEMM21）が開催されました。

本市での開催は平成25年度（TEMM15）に続き2回目となります。

会合では、三カ国の環境協力における最近の進展を確認するとともに、大気汚染の改善、海洋・水環境管理、気候変動など、次期共同行動計画（2020-2024）に向けた新たな優先分野の設定を合意し、共同コミュニケが採択されました。

また、TEMM21にあわせて、日中韓環境ビジネス円卓会議、ユースフォーラム、脱炭素化及び持続可能な発展

に向けた都市に係る共同研究のサイドイベントが開催されました。

市内では、同日にエコライフステージやSDGs フェスティバル等の市民参加型イベントも開催しました。会合参加者にも視察していただき、本市の環境施策や市民による環境の取り組みの情報発信を行いました。



第21回 日中韓三カ国環境大臣会合

4. 世界銀行との共催で国際シンポジウムを開催 (海洋ごみと海洋プラスチック問題解決に向けた課題とアプローチ)

世界銀行と本市は、平成28年度に「都市パートナーシッププログラム」を締結し、「グリーン成長」と「廃棄物管理」をテーマに、連携して事業を実施しています。

令和元年度は、世界銀行が開発途上国の政府関係者など14カ国約70名を日本に招いて、「廃棄物管理実務者研修」を実施しました。(11月11日～15日、東京都、北九州市で開催)

また、これに合わせ、11月13日に北九州国際会議場で国際シンポジウム「海洋ごみと海洋プラスチック問題解決に向けた課題とアプローチ」を開催しました。

世界銀行の専門家、政府関係者、メーカー企業、NPOなど様々な分野のパネリストが参加し、プラスチックごみを削減する上での課題、プラスチックごみ回収やリサイクルにかかる国内外の取り組み、民間企業での取り組みや海洋プラスチックごみ削減につながる最新の官民パートナーシップのあり方等について、議論を行いました。

シンポジウムには「廃棄物管理実務者研修」の参加者に加え、企業、大学、研究機関、市民、学生など約500人が参加しました。



国際シンポジウムの様子

5. 海洋プラスチックごみ問題への対策強化に向け、 本市と国連環境計画(UNEP)との連携事業の開始

2019年8月2日、北九州市と国連環境計画 アジア太平洋地域事務所(以下UNEP:United Nations Environmental Programme)は、「東南アジアにおけるプラスチックごみに係る連携枠組コンセプトのための関心表明書」を交換しました。

(1) これまでの経緯

本市は、1990年にUNEPから持続可能な開発の基盤である環境の保護及び改善に功績のあった個人及び団体に贈られる「グローバル500(現:CHAMPIONS of the earth)」を受賞して以降、互いの環境国際協力活動において良好な関係を築いてきました。

2018年11月に、両者が近年世界的な課題となっている海洋プラスチックごみ汚染対策について協議した結果、「アジア低炭素化センター」を中心に東南アジアの諸都市・地域における環境国際協力活動で実績のある本市と、海洋環境保護活動に積極的に取り組んでいるUNEPとの連携により、同地域の陸地由来の海洋プラスチックごみの削減効果が期待できるということで意見が一致し、本関心表明書の交換へと繋がりました。



UNEPとの関心表明書交換(令和元年8月)

(2) 今後の取り組み

本市は今後、本関心表明書に基づき、UNEPの海洋プラスチックごみ対策プロジェクト実施対象地であるタイやカンボジアの島嶼エリアやメコン河流域エリアにおいて、専門家派遣による各種支援やワークショップ開催、北九州市内企業の優れた環境技術移転等により、現地自治体の廃棄物管理能力向上を支援し、プラスチックごみの適正処理推進を目指すこととしています。



6. 北九州市プラスチックスマート推進事業

(1) 事業実施の経緯

プラスチックごみについては、海洋プラスチックごみ問題、地球温暖化、アジア各国による廃棄物の輸入規制等の幅広い課題があり、それらに対応するため、令和元年5月に、国が「プラスチック資源循環戦略」を策定し、今後取り組むべき重点戦略や数値目標が示されました。

環境首都とSDGsの実現を目指す北九州市としては、国の戦略とも歩調を合わせ、自治体として取り組むべきプラスチックごみ対策として、令和元年度から「北九州市プラスチックスマート推進事業」を開始しました。

(2) 事業の内容

本事業では、これまで取り組んできたレジ袋の削減等の取り組みに加え、「排出削減」、「リユース・リサイクル」、「徹底回収」、「市役所の率先垂範」の4つの観点から、総合的なプラスチックごみ対策を実施することとしています。

ア. 排出削減

(ア) 指定ごみ袋等のバイオマスプラスチック化

家庭用指定ごみ袋やまち美化用ボランティア袋の原材料の一部（10％）に、バイオマスプラスチックを導入することにより、石油由来のプラスチックを削減し、環境負荷を低減しました。



(イ) 排出削減等に向けた啓発

市民や事業者にプラスチックごみ問題の現状を理解してもらい、マイバッグやマイボトルの使用、プラスチック製容器包装の分別の徹底など、個人でもできる身近な取組等を周知するリーフレット、ポスター、PR動画等を作成し、様々な機会でもPRしました。



ポスター



PR動画

イ. リユース・リサイクル

(ア) プラスチックに関する技術開発等への支援

北九州市の「環境未来技術開発助成」において、新たに、重点分野として「プラスチック関連」を創設し、プラスチックのリユース・リサイクル、バイオプラスチック利用等の技術開発を行う市内企業や研究機関等の取組について、助成金を交付しました。（令和元年度はプラスチック関連で5件を採択）

また、廃プラスチックを用いた素材を製造、販売をする市内企業を北九州エコプレミアムに認定するなど、新技術開発・普及を促進しています。



(株)エコウッド
廃木材・廃プラスチックを原料とした建築資材

(イ)プラスチック製容器包装リサイクルバスツアー

小学生を対象に、プラスチック製容器包装の選別過程から再商品化に至るまで、リサイクルに関する一連の工程について施設見学を行うバスツアーを実施し、令和元年度は、市内小学校4校223名が参加しました。

**ウ.徹底回収****(ア)大規模な海岸清掃やまち美化事業の実施**

市民参加による大規模な海岸清掃を実施し、回収したごみの組成調査結果や清掃風景をパネル展示するなどして、市民意識の向上を図りました。

**エ.市役所の率先垂範****(ア)市役所職員による取組**

業務中のマイボトル・マイカップの使用推進、会議等でのペットボトル提供削減、レジ袋等不要な使い捨てプラスチックの受取辞退など、プラスチックごみ削減に向けて、市役所職員自らが先導的に取り組みました。

また、市役所内で営業している食堂や売店等の事業者へ、利用客へレジ袋やストロー等の使用を確認してもらうなど、協力を依頼しました。

7.北九州市災害廃棄物処理計画の策定**(1)計画策定の経緯**

大規模災害時に発生する災害廃棄物を適正かつ迅速に処理するため、「北九州市災害廃棄物処理計画」を策定しました。

この計画は、北九州市地域防災計画に基づき、環境省の「災害廃棄物対策指針」や「福岡県災害廃棄物処理計画」を踏まえたものであり、本市の災害廃棄物処理マニュアルの役割を担うものです。

(2)計画の概要

本計画は、災害廃棄物の処理方法等の基本的な考え方を定めた計画であり、市民の安全・衛生等を確保することを目的としています。

(3)目標処理期間

発災後、概ね2年間を目標としていますが、災害規模や災害廃棄物の発生量に応じて、できる限り早期の処理を目指します。

(4)災害廃棄物の分別

災害で生じた片付けごみ（家財道具等の廃棄物）を通常のごみステーションに出すと、家庭ごみ収集に支障をきたす恐れがありますので、次のとおりご協力をお願いします。

生活ごみは、通常どおり家庭ごみ（資源化物）ステーションに出してください。

片付けごみは、お近くの公園などの仮置場に出してください。

(5)災害廃棄物の処理

公園等の仮置場で分別し、できるだけ速やかな処理を目指します。

